

今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇JERCO 東北ブロックセミナーに参加して

■ [随想](#)

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕(41)

木下 清隆

■ [編集後記](#)■ [トピックス](#)

◇JERCO 東北ブロックセミナーに参加して

(一社)日本住宅リフォーム産業協会(JERCO)、在住ビジネス株式会社、福井コンピュータアーキテクト株式会社と弊協会の共催により、11月1日に仙台で開かれた標題セミナーに参加してきました。

JERCOは、中小の工務店とメーカー合わせて約500社からなる団体です。野村総研によれば、人口減少などにより新設住宅着工件数が2018年度の95万戸から2030年の62万戸へと大幅に減少する一方で、リフォーム需要は今後も堅調に推移することが予想される中(https://www.nri.com/jp/news/newsrelease/1st/2019/cc/0620_1)、同協会はリフォームに焦点をあてこれからの住宅行政を変えていこうとしている団体です。こうした取り組みは行政からも非常に注目されており、空き屋対策などの解決に向かってこれからも大いに伸びて行く業界団体だと考えています。また会員の方々も「住みやすい家」に対する関心が強まっており、リフォームについてもっと勉強したいと考える経営者が増加しています。

このような背景から弊協会では、これまでに築いてきた大学の先生との繋がりを活用して学術的側面からJERCOを支援し、弊協会は塩化ビニル製品各種のPRをさせて頂いています。

今回は、JERCO東北支部の方々を中心に46名の方が参加され熱心に聴講されていました。

4部構成のセミナーは、まず今回のメインテーマ、「wallstatの耐震改修での活用法」と題する京都大学生存圏研究所の中川貴文准教授によるご講演で始まりました。“wallstat”は中川先生が開発されたパソコンソフトで、

木造住宅の解析モデルにPC上で地震動を与え、実際の振動実験のように損傷や倒壊の過程をアニメーション化して確認できるという優れもの、しかも、どなたでもWebからダウンロードできるフリーソフトとのこと。塩化ビニル樹脂とは直接関係のないお話でしたが、地震大国日本にとっては大切なお話でしたのでご紹介します。



2010年に研究・教育用ソフトとして無償提供を開始した wallstat は、2015年 CAD との連携機能を備えた ver.3 に進化、2016年春の熊本地震後、ある TV 放送で紹介されたことをきっかけにダウンロード数が大幅に伸びたそうです。ちなみに、先生がこのソフト開発に着手するきっかけになったのが阪神淡路大震災、先生が大学に入られて間もないころの出来事だったそうです。

プレゼンでご紹介頂いた動画では、振動と共に建物が損傷していく様子が実際の建物の振動実験と本ソフトによる CG 動画を並べて映されており、建築や構造物に関しては全くの素人である筆者にも非常に分かり易く、また興味深いものでした。このソフトを使ってシミュレーションすることにより、家を建てる前、あるいは改修する前に補強方法を見積もることが可能になるとのことです。

これらの地震もそうですが、実は過去に大きな地震があった、とか、地震を引き起こすことが予想されている重要な断層がある、といった「不都合な真実」は、日本国中いたるところに存在しています。筆者は西日本のある地方都市出身ですが、自然災害のうちでも、特に地震はほとんどない地域のため、耐震に関する住民の意識は非常に低いように思われます。ところが、少々不安になって市の HP でハザードマップを調べて見ると、南海トラフが揺れた時には最大震度 6 弱との予想。決して侮れない揺れです。

「不都合な真実」にはつい目をつぶりたくなるのが私たち人間ですが、このソフトが住宅の新築、改修にもっともって活用され、地震が起こったときに建物の倒壊、それによる人的被害が少しでも軽減されるようになって欲しいと思います。

なお、中川先生は一般社団法人耐震性能見える化協会の代表理事でもあり、講習会等の普及活動も精力的にこなしておられます。講習会の案内やフリーソフトダウンロード先がわかる HP を紹介しておきますので一度覗いてみられてはいかがでしょうか。

<https://www.wallstat.jp/index.html>

次に、弊協会が受け持つ塩ビ製品紹介コーナーでは、BX テンパール株式会社様からオーニングの紹介を頂きました。オーニング (awning) はもともと英語で、直訳すると「日よけ」「雨覆い」。巻き取りパイプにキャンバスを取りつけ、日差しに応じて出し入れをすることで、日差しを自由に調整することができる、いわば日傘のようなものですが、ヨーロッパでは古くから住宅や商業建築などに広く活用されてきました。ちなみにオーニングの日本国内販売台数は年間約 2 万台なのに対し、ドイツではなんと年間 30 万台も売れているとのことで、まだまだ販売台数を伸ばせる市場ではないかとの予想です。

オーニングはポリエステル繊維を塩ビ樹脂コーティングで挟み込んだ構造を持ち、塩ビの優れた撥水効果、防汚効果、汚れても拭き取り易い、といった特徴が大いに活かされています。

プレゼンでは、BX テンパール様が自社で行った夏の遮熱効果試験や、印刷性の良い塩ビならではのカラーバリエーション、改修時に合わせて行うことによって持家のイメージが全く変わる提案など、工務店がお客様に提案出来る内容を説明されていました。

街角のカフェ等、種々の商店の軒先ではよく見かけるオーニングですが、住宅向けとしての普及はまだまだ進んでおらず、省エネや意匠性をアピールポイントとして販売を伸ば

していきたいとお話でした。リフォームをお考えの方は一度ご検討されてみてはいかがでしょうか。

■ 随想

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕（４１）

木下 清隆

<前回とのつながり>

今回も神崎櫛田宮の祭神問題の続きである。この櫛田宮は七世紀ころに創建され、当時の祭神は櫛玉命であったと考えられるが、十一世紀頃に再建されたときには、櫛稲田姫に替えられた。何故か、の問題は既にかなり述べたが、今回はその結論である。更に櫛田宮の祭神に関連して、博多の祭神女神説の本質を明らかにする。最後に神崎の櫛田宮と「蛇」との関係について述べる。これは櫛玉命と蛇との関係を示唆していると云えるが、このことが櫛玉命の正体を明らかにする鍵となる。このことは、本論の終盤に述べることになる。

次に新生櫛田宮のスタートに当ってなぜ祭神名を変えたのかである。十世紀も後葉になると櫛玉命よりは素戔鳴尊・櫛稲田姫命の方が遥かに有名になっていたからではなかろうか。天皇家として素戔鳴尊への崇敬の念の高まる中、院御領の鎮護の社として再生する櫛田宮の祭神としては、素戔鳴尊・櫛稲田姫命の夫婦神の方が相応しいとの判断があったと思われる。この時代になれば伊勢と博多の櫛田神社で行われたような、櫛玉命排除といった政治的な判断は、最早、無用の時代になっていたと考えられるからである。そして櫛田宮としては櫛玉命を当時すでに有名となっていた日本武尊に名を替えて残したのであろう。



神崎櫛田宮

この新生櫛田宮はその後、院の力を背景に大きく発展していったと考えられる。現在の執行家の先祖が神崎の地に係わりを持つようになる経緯について、執行武典氏は著書の中で、

「執行家の系図によれば、従四位下小納言伴兼直は、鳥羽院之御宇、肥前国神崎櫛田宮神事に就いて勅使となり下向、その後在国す。永久三年乙未(一一一五)正月十八日修造上棟のとき、別当職となる。」

と述べている。この文から分ることは、この時代、櫛田宮の神官等は勅命によって都から下向してきたこと、更に、その位が極めて高いことである。朝廷における神祇官の長を伯というが、その神祇伯の位が従四位下なのである。神祇伯と同位の者を櫛田宮に下向させるということは、それだけ院としてもここを重要な神社と見ていたことになる。平安末から鎌倉期にかけて、この神崎の櫛田宮は博多の櫛田神社とは比較にならない権威があり勢力があったことは、以上の史実から容易に推測される。このような状況のなかで蒙古襲来となった。託宣により御剣を博多の末社櫛田神社に移したとのことであるが、院の方から、

そのような意向が出されたのかもしれない。神埼の末社が博多にあるというのは地理的に見て、普通では考えられないことであるが、その当時の櫛田宮は、博多の櫛田神社を末社と見るほどの意識になっていたのかもしれない。余程の大社でない限り、これほどの遠隔の地に末社を持つことなどありえないからである。事実関係として博多の櫛田神社が神埼の櫛田宮から祭神を勧請したのなら、本社・末社の意識があったとしても不思議ではないが、そのような事実がないことは本考で述べてきたとおりである。従って、末社問題は当時の両社の力関係を反映してのことと見るのが、妥当な見方であろう。

このような力関係のなかで起きた別の問題がある。それが博多櫛田神社の祭神女神説である。当時の博多櫛田神社は、恐らく神埼の櫛田宮から何かと面倒を見てもらうと同時に、その指示も受けていた可能性は考えられる。そのような中に祭神変更の要請があったのかもしれない。それをかわすための手段として櫛田神社はその祭神を“櫛田明神”としたのではなかろうか。要するに外向きには祭神名を曖昧にしたのである。そのような曖昧さの中から祭神女神説が生まれて来た可能性はある。神埼が親で博多は子であるといった話が多くの人々の口端に上るようになり、親の祭神が女神なのに博多の祭神が大若子命等聞いたことも無い神様なのはおかしい、きっとこちらも女神に違いないといった話になった可能性は有り得る。しかし、このような女神説も、応仁の乱以降、朝廷、院の力が低下し、それにつれて、神埼の櫛田宮の権威も勢力も衰えたとみられることから、室町以降は下火になって行ったはずである。

以上が中世の博多において出てきた祭神女神説に対する一つの解釈である。本当の所は良く分らないが、この女神説が起きた理由については、神埼の櫛田宮が女神であることが、その大きな要因となっていたことは間違いない。

最後に、この神埼の櫛田宮にまつわる話の中に蛇が随所に出てくることは注目される。元寇の時の海上に出現した蛇、御剣に巻きついていた蛇、菊地入道が射殺した蛇等である。これらが事実であるとはとても考えられないが、これは櫛田の本来の祭神の属性として、蛇神としての一面があることを示しているといえよう。櫛田宮の祭神としての櫛稲田姫命、或は櫛田神社の大若子命は両神共に蛇とは無関係である。従って、この属性は櫛田神社の本来の祭神と見なしている櫛玉命のものとしか考えられないことになる。このようなことから、次のような結論を導き出すことができよう。

— 櫛玉命は一面において蛇神としての属性を持っている。 —

これは、櫛田の本来の祭神は大若子命でも無ければ、櫛稲田姫でもない、本当は櫛玉命であるとする本考の考え方を支持する一つの傍証といえよう。このような史料が櫛田宮に残されていることは、櫛田宮の本来の祭神は櫛稲田姫では無いとする伝承が存在していたことを示している。

(つづく)

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いです。>> [\(筆者\)](#)

「古代ヤマトの遠景」：[バックナンバー](#)

■ 編集後記

「新しい時代を Create する PVC 製品」をテーマとして PVC Award 2019 の作品公募を今年 6 月 1 日から開始し、10 月 31 日に応募を締め切りました。各方面からたくさんの作品を応募していただきありがとうございました。今後、11 月下旬の審査を経て、12 月中旬に受賞者の発表を行う予定です。発表は、公式 web サイト (<http://www.pvc-award.com/>) 上で行います。その他のスケジュールは次の通りです。(PVC Award 2019 事務局)

表彰式 2020 年 1 月 10 日 (金) 10:30~11:00 (会場：如水会館)

展示会 2020 年 1 月 17 日 (金) ~26 日 (日) (会場：GOOD DESIGN Marunouchi)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp
